

国内進学説明会（東京会場）に出席して

多島圏研究センター 青山 亨

外国人学生のための進学説明会（College Guidance Fairs）は、財団法人日本国際教育協会（AIEJ Association of International Education, Japan）の主催で、昨年9月5日に大阪、9月12日に東京で開催された。東京会場には、留学生相談主事の筆者と留学生係の山本美穂氏が出席したので、以下、参加して気づいたこと、今後の改善点について述べてみたい。

東京会場は、都内の大規模イベント会場である池袋ワールドインポートマート4階の展示ホールで開催された。参加大学167校で、国公立・私立・短大ごとに北から南の順に各校にブースが用意されている。私たちは、準備してきた大学組織図をブース背面のパネルに貼り付けて大学の概要が一目でわかるようにする一方、鹿児島観光ポスターを並べて貼ったり、生協であつらえた鹿大Tシャツを着たり、ともかく鹿児島の存在を学生にアピールすることにした。

これに対して、午前10時から午後4時までに来場した外国人学生は主催者発表によると2813人。出身国・地域の総数は13で、東アジアからの学生が圧倒的に多く、67パーセントが中国、韓国13パーセント、台湾10パーセントとのことであった。その中で、鹿児島大学のブースに来て、名簿に記名していただいた数は33名。内訳は、男26名、女7名、学部入学志望27名、大学院志望6名、出身国では中国28名、韓国3名、台湾1名、ブラジル1名であった。私費留学生を対象とするこの国内説明会への来場者は、すでに数ヶ月以上日本に滞在して日本語を学んできているうえ漢字文化圏出身者が多いため、説明は日本語を中心としておこなった。

外国人学生がどのような情報を欲しがっているかを明らかにするために、学生から出た代表的な質問と私たちが与えた回答と私のコメントをまとめておく。

よくある質問1：私はこれこれの分野で勉強したいのです。鹿児島大学にその分野で研究されている先生はいますか？回答：ここに資料がありますから見てみましょう（といって『研究者総覧』を開いて捜してみる）。一進学説明会にやって来る学生の多くはどのような分野で研究したいかかなり明確な目的意識をもっている。したがって、彼らにとって最大の関心事は、どの研究者がなんの研究をおこなっているのかということである。大まかな研究組織は大学概要でも分かるが、研究者単位で調べるには、『研究者総覧』が不可欠となる。しかし、現行の『研究者総覧』は特定項目を検索するには使いづらい。次回の研究総覧には専攻分野の索引を付けるなどの改善を希望したい。また、海外での説明会のことを考えれば、将来的には英語版も必要かもしれない。さらに、昨年11月

から公開されているWWW版「研究者総覧のデータベース」のデータをCD-ROMに落として、会場のブースに持ち込んだノート型パソコンで直ちに検索できるようなシステムが構築できると理想的である。

よくある質問2：大学院の募集要項はありますか？回答：まだ出来ていません。ここに前年の募集要項発表日のリストがありますから、同じ頃に各学部の学生係に申し込んでください。―見本として、前年分でもよいから実物を用意しておくといよい。学生にとっては過去のものでも実物を見た安心感は大きいと思われる。

よくある質問3：出願書類として提出する卒業・成績証明書は写しではいけませんか？回答：だめです。正本のみを受け付けます。出身校が証明書を発行してくれない場合には、出願時に卒業証書などの正本を準備して来てもらい、入試課が正本であることを確認したうえでコピーを作って受け取るようになります。―これは、日本の大学のように、学生からの要求に応じてそのつど証明書を発行する制度ではないためである。学生の立場からすれば唯一の正本を提出することに不安があるわけで、まだ改善の余地がある。たとえば、コピーが正本通りであることを第三者が認定するような制度があれば、認定済みのコピーを提出すだけですむのではと思われる。

よくある質問4：現在通っている日本の専門学校の卒業証明書は必要ですか？回答：いいえ、必要ありません。本国で12年間の正規教育課程を受けていること（高校卒業相当）のみが必要条件です。―これは、高卒のあとさらに日本の専門学校に通っている学生からの質問である。

よくある質問5：日本語能力試験は1級と2級のどちらをとればよいのですか？回答：どちらでもかまいません。―鹿大ではこれまで1級（日本語学習900時間程度）の受験を条件としていたが2000年度から2級（同600時間程度）でもよいことにしている。学生からすれば1級受験の方が「格が高い」のか、2級受験で得点を高くした方がいいのか迷うのであろう。次の質問とも関連している。

よくある質問6：私費外国人留学生統一試験では何点以上必要ですか？回答：具体的な点数は分かりません。入学の可否は、日本語能力試験と私費外国人留学生統一試験の点数そして面接に基づいて、各学部の選考委員会が総合的に判断するからです。―これら二つの試験については何らかの具体的な基準を明確にできないか検討してみてもはどうだろうか。統一試験の必要点数を具体化する必要があるのかもしれない。

よくある質問7：編入学は可能ですか？回答：鹿児島大学では法文学部と工学部だけが認めています。試験の内容などについては、該当する学部に直接問い合わせてください。―これは、すでに日本の大学に入っていて、何らかの理由で鹿大へ移ってみようかという学生である。説明会に先立っ

て、各学部の方針（少なくとも過去の実施状況）について調査しておけば、学生に対してより親切な回答となったと思われる。

よくある質問8：授業料はいくらですか？回答：全国の国立大学と同じです（といって資料を見せる）。一回の説明会からは、授業料のリストの他にも、国際交流会館に入った場合の所定の費用、鹿児島で生活するにあたっての平均的な生活費などのデータ、入試課や各学部学生係の連絡先などのリストを一つにまとめて進学説明会用の配布物を作成しておくと思われ。

よくある質問9：学生は暇なときはどんなことをしていますか？回答：趣味のクラブなどがあります。一留学生の生活がわかるような資料、たとえば、趣味としてサッカークラブで楽しむ留学生の写真とかビデオなど準備できるとよい。携帯型の液晶ビデオプレーヤーとかパソコンのマルチメディア機能の活用も検討すべきである。むろん勉強が最重要だが、こういう日常生活のレベルでも、学生に来たいという気にさせるものが大事であろう。これに関連して、鹿児島の温暖な気候は、同じく温暖な気候の地域からの学生にアピールできる点であり、積極的に宣伝に活用すべきであろう。

よくある質問10：東京から鹿児島までのもっとも安上がりな交通手段と運賃を教えてください。回答：鹿児島からの往復航空券だと5万円くらいですね。—今回、一番予想外の質問であった。学生は、飛行機などの便利な交通機関よりも、ひたすら安い交通機関を希望しているわけである。私たちとしても鹿児島発の割安運賃についてはまだ見当がつくが、東京発となるとまったく情報不足であった。旅行業者を通じて事前に調査しておくとうれしいと感じた。

最後に、学生からの質問以外に気づいた点を二点挙げておく。名簿に名前を書いてもらった学生には、フォローアップの通知（募集要項の発表など）を出すのが望ましい。2000年度に向けての案内は時期を逸したが、次回からはぜひ実行したいものである。ノート型パソコンを持ち込んでおいて、その日のうちにデータを入力をしておけば、後日の作業が楽になるであろう。それから、募集要項はもっと広く全国の日本語学校に配布することを検討してもよいであろう。現状では、日本国際教育協会に送る以外には、請求があったときにのみ配布している。

進学説明会は、学生が、日本全国の大学の人間と直接話をすることによって、情報を手に入れたり疑問点を質したりして、各大学を比較検討できるという点で、きわめて意義のある催しだと思う。このような環境で、鹿児島という場所さえも知らないような学生の足を止めて、ブースに立ち寄ってもらうためには、まず関心を引かなければならない。そして、いったん関心をもってもらった学生には、肯定的な印象をもってもらう必要がある。私たちの経験をもとにして、鹿児島大学にとってもより実りある説明会になることを望むものである。